

専門分野 I

専門分野 I

目 的

看護の概念を理解し、看護の位置づけ、役割について学ぶ。

目 標

- 1 看護の目的と看護を構成する要素を学び、看護の概念を理解する。
- 2 看護が歴史的にどのように築きあげられてきたか、またこれからの看護について学ぶ。
- 3 健康の概念を明らかにし、健康の社会的意義について理解する。
- 4 健康と健康障害の関連について理解する。
- 5 保健医療チームと看護のかかわりを理解する。
- 6 新しい時代の看護に対するニーズの拡大について学ぶ。
- 7 人間に対する見方、考え方を学び看護の対象である人間を総合的に理解する。
- 8 看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する。
- 9 よりよい看護サービスを提供するために看護の原則を学び、医療チームの中でメンバーの一員として責任ある行動がとれる。
- 10 研究の基本的知識・態度を習得し、看護を多角的視野から考察し、質の高い看護を追求する能力を養う。

教科目の構成

基礎看護学	看護学概論	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論	9 単位 (240 時間)
	基礎看護技術論 I (環境調整技術)	1 単位 (15 時間)
	基礎看護技術論 II (食事・排泄援助技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 III (活動・休息、安全管理、安全確保の技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 IV (清潔・衣生活援助技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 V (感染予防、呼吸・循環を整える技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 VI (創傷管理技術、与薬の技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 VII (症状・生体機能管理、フィジカルアセスメント技術)	1 単位 (30 時間)
	基礎看護技術論 VIII (コミュニケーション技術)	1 単位 (15 時間)
	看護過程の展開	1 単位 (30 時間)
臨床看護総論	1 単位 (30 時間)	
看護研究	1 単位 (15 時間)	

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	看護学概論
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 41 年		

設定理由：看護の概念を理解し、看護の位置づけ・役割について学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護の原点を学び看護の概念を理解できる。 2 健康の概念を明らかにし健康の社会的意義、保健医療チームと看護の関わりを理解できる。 3 看護職者としての職業倫理を学び自覚と責任を持つことの必要性が理解できる。 4 災害看護の特徴を理解できる。	14	1 看護とはなにか 1) 看護の原点 2) 看護の理念 3) 看護論 (1) ヴァージニア・ヘンダーソン (2) フローレンス・ナイチンゲール (3) ドロセア・E・オレム 4) 看護実践における研究	講 義	試 験
	6	2 看護の対象としての人間 1) 人間の欲求と健康 2) 健康のとらえ方 3) 国民衛生の統計 4) 健康関連行動 5) 現代の家族とライフサイクル 3 看護の提供者 1) 職業としての看護 2) 看護職の養成制度と就業状況 3) 看護職者の教育とキャリア開発 4) 看護職者の養成制度の課題 5) 看護職者の倫理		
	4	4 看護の提供のしくみ 1) サービスとしての看護 2) 看護サービス提供の場 3) 看護をめぐる制度と政策 4) 看護サービスの管理 5) 医療安全と医療の質保証		
	6	5 広がる看護の活動領域 1) 看護の国際協力 2) 災害時における看護		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院
 看護倫理 見ているものが違うから起こること 医学書院
 よくわかる 看護者の倫理綱領 照林社

専門分野 I

基礎看護技術論 9 単位 (240 時間)

設定理由：看護の対象の理解と看護を实践する上で基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論 I (環境調整技術)
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年 (前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 19 年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 環境調整の意義と援助方法が理解できる。	11	1 環境の意義	講 義	試 験
		2 病室の環境のアセスメント		
		3 環境調整の技術		
		1) ベッド周囲の環境整備 2) ベッドメイキング 3) リネン交換		
2 環境調整の援助ができる。	4	4 環境調整の援助	演 習	実技試験
		1) ベッドメイキング		
		2) リネン交換		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論 II (食事・排泄援助技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年 (後期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13 年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 食事の意義と援助方法が理解できる。	12	1 食事の意義 2 食事・栄養摂取に影響する要因 3 食事・栄養状態のアセスメント 4 食事摂取の援助 1) 経口摂取 2) 食事摂取の自立困難な患者の援助 5 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 経静脈栄養法	講 義	試 験
2 排泄の意義と援助方法が理解できる。	10	1 排泄の意義 2 医療安全の概念と安全管理対策 3 排泄のアセスメント 4 自然な排便・排尿を促す援助 1) トイレ 2) ポータブルトイレ 3) 床上排泄 4) おむつ交換 5 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿 6 排便を促す援助 1) 浣腸 2) 摘便		
3 食事・排泄の援助ができる。	8	6 食事援助の実際 1) 経口摂取の援助 7 排泄援助の実際 1) 尿器・便器の介助 2) おむつ交換	演 習 演 習 演 習	実技試験 実技試験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 II 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論Ⅲ (活動・休息、安全管理、 安楽確保の技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 15 年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 活動・休息の 意義と援助方法が 理解できる。	16	1 活動・休息の意義	講 義	試 験
		2 活動・休息に影響する要因		
		3 活動・休息のアセスメント		
		4 基本的活動・休息の援助		
		1) ボディメカニクス		
		2) 体位変換		
		3) 歩行		
		4) 移乗・移送(車いす・ストレッチャー)		
		5) 睡眠・休息を促す援助		
		5 基本的活動の実際		
		1) 体位変換	演 習	実技試験
		2) 移乗・移送(車いす)	演 習	
		3) 移乗・移送(ストレッチャー)	演 習	
2 安全管理の意 義と方法がわか る。	6	9 安全管理の意義	講 義	
		10 医療安全の概念と安全管理対策		
3 安楽確保の意 義と方法がわか る。	8	12 安楽確保の意義	講 義	
		13 安楽確保のための援助		
		1) 体位保持	演 習	実技試験
		2) 電法	演 習	

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
 医療安全ワークブック 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論Ⅳ (清潔・衣生活援助技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 13 年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 清潔・衣生活の意義と援助方法が理解できる。	18	1 清潔・衣生活の意義 2 清潔・衣生活に影響する要因 3 清潔・衣生活のアセスメント 4 清潔行動・衣生活の自立度に応じた援助 1) 入浴 2) 全身清拭 3) 部分浴 4) 陰部洗浄 5) 洗髪 6) 口腔ケア 7) 寝衣交換 8) 整容	講 義	試 験
2 清潔・衣生活の援助ができる。	12	5 清潔・衣生活の援助 1) 全身清拭・寝衣交換・足浴 2) 洗髪 3) 口腔内の清拭	演 習 演 習 演 習	実技試験 実技試験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論V (感染予防、呼吸・循環を整える技術)
単位・時間	1単位 30時間	対象学年	1年(前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 12年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 感染予防の意義と援助方法が理解できる。	11	1 感染予防の意義 2 感染に影響する要因 3 感染予防のアセスメント 4 標準予防策 5 感染経路別予防策 6 洗浄・消毒・滅菌 7 無菌操作 8 感染性廃棄物の取り扱い	講 義	試 験
2 呼吸・循環・体温調整の意義と援助方法が理解できる。	11	1 呼吸調整の意義 2 呼吸調整のアセスメント 3 酸素吸入療法 1) 酸素吸入の適応 2) 酸素ボンベ 3) 中央配管方式 4) 酸素マスク・経鼻カニューレ 4 排痰法 1) 体位ドレナージ 2) 吸引(口腔・鼻腔・気管内吸引) 5 持続吸引(胸腔ドレナージ) 6 吸入 7 循環・体温調整の意義 8 循環・体温調整のアセスメント 9 循環・体温調整の援助	講 義	
3 感染予防・呼吸・循環を整える援助ができる。	8	10 感染予防の援助 1) 標準予防策 2) 無菌操作	演 習 演 習	実技試験 実技試験
		11 呼吸・循環を整える援助 1) 酸素吸入療法(経鼻カニューレ) 2) 口腔吸引・鼻腔吸引	演 習 演 習	実技試験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論VI (創傷管理技術、与薬の技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (後期)
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 19 年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 創傷管理の意義と援助方法が理解できる。	10	1 創傷管理の意義 2 創傷のアセスメント 3 創傷処置 4 褥瘡予防	講 義	試 験
2 与薬の意義と援助方法が理解できる。	20	1 与薬における看護師の役割 2 薬物療法の基本 3 薬剤の種類と取り扱い方法 1) 誤薬の防止対策 2) チューブ・ライントラブルの防止対策 3) 針刺し事故防止対策 4 与薬の方法と効果の観察 1) 経口与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬 7) 注射 5 輸血管理	講 義	

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論Ⅶ (症状・生体機能管理、フィジカルアセスメント技術)
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (前期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 10 年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 生体機能のモニタリングの意義と援助方法が理解できる。	6	1 生体機能のモニタリングの意義 2 検体検査 (尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、脳脊髄液) 3 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) 4 血糖測定 5 心電図 6 生体検査	講 義	試 験
2 フィジカルアセスメントの意義と援助方法が理解できる。	6 12	1 フィジカルアセスメントの意義 2 問診、視診、触診、聴診、打診の基本技術 3 バイタルサインの意義 4 バイタルサインの測定と評価 5 意識レベルの評価 6 身体計測と評価 7 系統別のアセスメント 1) 呼吸器系 2) 循環器系 3) 消化器系 4) 感覚機能 5) 運動機能 6) 高次脳機能	講 義 講 義 演 習	
3 フィジカルアセスメントの援助ができる。	6	8 フィジカルアセスメントの技術 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測		実技試験 実技試験

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護技術論Ⅷ (コミュニケーション技術)
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年	1 年 (後期)
方法	講義・演習		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 15 年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護におけるコミュニケーションの意義と方法がわかる。	4	1 コミュニケーションの構造とプロセス 1) コミュニケーションの意義と目的 2) 医療におけるコミュニケーション 3) コミュニケーションの構成要素と成立過程	講 義	試 験
	11	2 コミュニケーション技法 1) コミュニケーションの基本 2) 円滑なコミュニケーション 3) 言語的・非言語的コミュニケーション 4) 面接技法 3 コミュニケーションに障害のある人々への対応	演 習	

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	看護過程の展開
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	1 年 (後期)
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として附属病院 14 年		

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護過程の意義、構成要素、各段階を理解する。	4	1 看護過程とは 1) 看護過程の定義 2) 看護過程の意義 3) 問題解決過程と看護過程 2 看護過程を展開するために必要な能力 3 看護過程の構成要素 4 看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 看護上の問題の明確化 3) 看護計画の立案 4) 実践 5) 評価 6) 看護過程の記録	講 義	レポート
2 看護計画立案の具体的方法を理解する。	16	5 看護過程の展開 1) 情報の収集 2) 情報の確認・整理 3) 情報の分析・解釈 4) 情報の統合と全体像の把握 5) 看護上の問題の明確化 6) 優先順位の決定 7) 看護目標の設定 8) 看護計画の立案		
3 対象の看護計画を立案し記述する。	10	6 看護過程の実際 1) 事例展開		

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院
 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	臨床看護総論
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年	2 年 (前期)
方法	講義		
講師名	専任教員 1) 法人講師 2) 3) 4) 5) 6)		
実務経験	1) 看護師として附属病院 10 年 2) 医師として附属病院 14 年、他病院にて 8 年 3) 看護師として附属病院 20 年 4) 臨床工学士として附属病院 23 年 5) 臨床工学士として附属病院 23 年 6) 臨床工学士として附属病院 17 年		

設定理由：主要症状・治療・処置を受けている患者の看護を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 化学療法を受ける患者の看護が理解できる。	6	1 化学療法施行時のトラブルと対策 2 化学療法中の症状マネジメント 1) 骨髄抑制 2) 脱毛 3) 悪心・嘔吐 4) 全身倦怠感 5) 過敏症 6) 腎障害 7) 下痢・便秘 8) 末梢神経障害 3 化学療法を受ける患者・家族へのサポート	講 義	試 験
2 放射線治療を受ける患者の看護が理解できる。	4	4 人体に対する放射線の影響 5 放射線治療と看護 1) 照射期間中の患者指導 2) 放射線治療と食事療法 3) 治療終了後の患者指導 6 放射線防護と健康管理	講 義	
3 症状に応じた看護が理解できる。	10	7 呼吸困難のある患者の看護 8 倦怠感のある患者の看護	講 義	
4 看護事故防止について理解できる。	6	9 看護における安全 1) ヒューマンエラー 10 医療看護におけるリスクマネジメント 1) リスクとリスクマネジメント 2) インシデント・アクシデント報告 11 看護業務の特性と医療事故 12 専門職としての責任	講 義	試 験

5 医療用機器の原理と実際が理解できる。	4	13 診療補助に伴う援助技術の実際 1) 医療用機器の原理と実際 (1) 輸液ポンプの操作 (2) 心電図モニターの使用 (3) 病院における医療用機器の使用の実際	講 義	
----------------------	---	--	-----	--

テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院
 系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	看護研究
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年	3 年（前期）
方法	講義		
講師名	専任教員		
実務経験	看護師として付属病院 14 年		

設定理由：看護をマネジメントする基礎として、看護現象を客観的・科学的・論理的にとらえる看護研究の知識・態度を学ぶ。またケーススタディを通し、自己の看護観を深める。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 看護における研究の意義と必要性を理解し研究の基礎が理解できる。	7	1 看護における研究の意義と必要性 2 研究方法 1) 質的研究 2) 量的研究	講 義	レポート 実技試験
	7	3 看護研究のプロセス 1) 問題の抽出、テーマの決定 2) 研究計画書の作成 3) データの収集 4) データの分析 5) 研究結果の解釈と評価		
2 ケーススタディを通し看護を多角的視点から考察できる。	1	6) プレゼンテーション		

テキスト 看護研究こころえ帳 医歯薬出版

わかりやすい ケーススタディの進め方 照林社

基礎看護学実習

目 的

看護の対象を知り、日常生活を支えるための基礎となる看護実践能力を養う。

目 標

- 1 人間が理解できる。
- 2 生活上の問題がわかり、日常生活を支えるために必要な看護が実践できる。

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護学実習 I
単位・時間	1 単位 45 時間	対象学年	1 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1)2)		
実務経験	1)看護師として附属病院 19 年 2)看護師として附属病院 13 年		

目 的

看護の対象と必要な日常生活援助が理解できる。

目 標

- 1 対象が統合された存在であることが理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
- 2 患者に必要な日常生活の援助がわかる。
 - 1) 患者の日常生活援助がわかる。
 - 2) 患者に応じた援助の方法がわかる。
 - 3) 実施した日常生活援助を評価できる。
- 3 「人間」について考えることができる。
- 4 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 看護師と行動を共にし、見学する実習を 1 日行う。
- 3 日常生活の援助が必要な患者を受け持ち、看護を実践する。
- 4 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 基礎看護学実習 I の評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。

専門分野 I

分野科目名	専門分野 I	科目名	基礎看護学実習 II
単位・時間	2 単位 90 時間	対象学年	1 年（後期）
方法	実習		
講師名	専任教員 1)2)		
実務経験	1)看護師として附属病院 19 年 2)看護師として附属病院 13 年		

目 的

対象に必要な日常生活援助のための看護実践能力を養う。

目 標

- 1 対象が統合された存在であることが理解できる。
 - 1) 身体的側面がわかる。
 - 2) 精神的側面がわかる。
 - 3) 社会的側面がわかる。
 - 4) スピリチュアル的側面がわかる。
- 2 患者に必要な日常生活の援助が実施できる。
 - 1) 日常生活の未充足な部分がわかる。
 - 2) 援助の必要性がわかる。
 - 3) 対象に応じた援助の方法がわかる。
 - 4) 援助が実施できる。
 - 5) 実施した援助を評価できる。
- 3 人間らしく生きていくことを支える看護について考えることができる。
- 4 退院後の生活がわかる。
- 5 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。

実習方法

- 1 実習前のオリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 日常生活の援助が必要な患者を受け持ち、看護を実践する。
- 3 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを 1 日 30 分行う。
- 4 学生および教員でグループワークを 1 日 30 分行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 基礎看護学実習 II の評価表を用いる。

2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。